

意見書案第 6 号

国の教育予算をふやして「高校無償化」を復活し、
給付制奨学金制度の確立について

別紙のとおり意見書案を提出する。

平成29年 6 月 23 日提出

提出者議員	峯	泰	教
賛成者議員	野	尻	清
〃	豊	岡	義博
〃	平	野	義文
〃	石	黒	武美
〃	上	田	久司
〃	斉	須	正友

国の教育予算をふやして「高校無償化」を復活し、
給付制奨学金制度の確立を求める意見書

「高校無償化」に所得制限を加えた「高等学校等就学支援金制度」が3年経過し、附帯決議に基づいた「3年後の見直し」が行われるため、「高校無償化」復活を求める取り組みがとりわけ重要になってくる。また、日本政府は国連社会権規約委員会から「最終見解」（2013年）に対して2018年5月までに報告するよう求められている。そこでは「漸進的に完全な無償の中等教育を提供するため」「高校無償化」に入学金・教科書代を含めるよう勧告されている。こうした点から、公立も私立も高校段階における教育の無償化を目指す取り組みが必要である。

高校授業料に所得制限を設けることは、教育を受ける権利を変質させ、高校生に分断を持ち込むものであり即時廃止すべきものである。

非課税世帯の高校生に支給される「高校生等奨学給付金（奨学のための給付金）」については2年続けて増額され、第1子の給付（年額）は、国公立が5万9,500円から7万5,800円に、私立が6万7,200円から8万4,000円になり、一定の改善があった。しかし、依然として第2子以降との間には大きな差がある。また、この給付金の財源が年収910万円以上程度の世帯の高校生から徴収した授業料であり、「権利」としての教育から逸脱したものであるという問題は残されたままになっている。さらに、地方自治体によるばらつきも大きく、国が責任をもって改善を進めることが求められる。

学ぶ権利を保障するため、世界にも例のない「高校授業料への所得制限」は直ちに中止し、教育予算をふやした上で、「高校無償化」を復活し「高校生等奨学給付金」を拡充して給付制奨学金制度を確立することが求められる。

よって、次の措置を講ずるよう強く要望する。

記

- 1 国は教育予算をふやして、「高等学校等就学支援金」への所得制限をやめて「高校無償化」を復活すること。
- 2 国は教育予算をふやして、「高校生等奨学給付金（奨学のための給付金）」を拡充して、高校生に対する給付制奨学金制度を確立すること。

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

平成29年 6 月 日

岩見沢市議会

提出先

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣

文部科学大臣
財務大臣
総務大臣